





ございました。特に文化祭や  
 タブローなどでお世話にな  
 りながらお怪我をされ、こ  
 の場にはいらっしゃること  
 でできなかったベルナルドさ  
 んにお別れの交換が出来な  
 ないのが残念ですね  
 そして在校生の皆さん、  
 良き伝統を受け継ぎ、さら  
 にすばらしい洛星をつくり  
 あげて下さい。

卒業生総代 勝藤拓郎

山口県の田舎から京都に出てきて、はや三年。孤独な下宿生活の中で、喜びと悲しみのごちゃまぜになった煩瑣な日々を生き抜いてきて、今思う、「ふふん、オレもだいが大人になったな」と。

この六年間、毎年他人事のように卒業生を見送ってきたが、今度は自分が見送られる番になった。一足先に洛星を去る者として、在校生の皆さんに一言。洛星

の伝統こそ、洛星を洛星たらしめているものであり、出来る限りその伝統を受け継ぎ、維持していつて欲しい。大層なことを言うようだが、これが私の本心である。それではお元気で。

本当に短い六年間でした。洛星がキリスト教の学校とは知らず、入学式の時に大きな十字架を見て、大変なところへ来てしまったと動揺したことを今もよく覚え

ています。しかし、それから六年間、よき先生・学友

ほど満足して京都での生活を振り返ることはできなかったであろう。洛星には「あたたかさ」がある。共通一次の朝、寒い中を試験場前に並んで僕らを勇気づけようとしておられる我が校の先生方の姿を見たとき僕はこれまで自分を陰で支えてきてくれた力を見たように思った。

さあ、僕は旅立たねばならぬ。さらば母校よ、かけがえのない三年間をありがとう。

六年ほど前、洛星への入学が決まった。学校はまだ灰色でヨタつていたし、白梅町にはノーパン喫茶があった。不健康な所へ来た、とうんざりした。「ルビーの指環」、「春咲小紅」は大嫌いだ。どんより雲だらけの空の印象がある。ま、僕だけじゃなからうが。

いま、卒業させて頂く。わがままな成績不振者も、恩を感じる季節である。「感謝。僕ア、シアワセモンだ。」

H III B 東 博文

振り返ると、六年間が瞬時に過ぎ去つたように思える。その一瞬／＼を最善を尽して生きてきたつもりだが、今思えば後悔の念を抱くことも若干ある。しかしそれが人生というものかもしれない。卒業に当り、在校生に申し上げたいのは、是非いろいろなことに興味を持って、幅の広い、土台のしっかりした人になって欲しいという事だ。最後になるが、私を鍛えてくれた友人や先生方に感謝して結びの言葉とする。

H III C 中原茂樹

共通一次試験の導入以降とにかく暗記さえすれば良いという風潮が強まってきていますが、僕は暗記自体には何の意味もないと考えています。論語にも「学んで思はざれば則ち罔し。思

「ぶ」ことは「思う」ことと  
 一体になって初めて意味を  
 持ちます。常に広い視野か  
 ら自分の学んでいる事柄を  
 確認し、それを思索の材料  
 にして、更に生きていく上  
 の糧にまで高めることが  
 できれば、受験勉強にも大  
 学合格以上の意義を見い出  
 せるのではないでしようか。

H Ⅲ C 小夫家宏

月日の経つのは早いもの  
 で、あっという間の六年間  
 でした。卒業にあたり、昔  
 を振り返るのが普通かもし  
 れませんが、敢えてそうし  
 ようとは思いません。目前  
 の二次試験もさることなが  
 ら、うまく大学に入ったと  
 してもそれからが人生の正  
 念場であると思われるから  
 です。これから共に努力  
 を続けていくのみです。最  
 後になりましたが、先生方

「戦争が誰であれ、本当は戦いたくないのじゃないのか？勝てる相手となら——それしたいんじゃないのか？」地球上で二度目の大きな戦争が終わつてから、はや四十年。電子技術・生物工学を始めとして科学は凄まじい進歩を遂げた。一方精神の方は人が初めて道具を手にした頃から、どれだけ進化したと言えるだろうか。

世界各地で小さな戦火が絶えず、各国が軍拡を目指す今日、様々な所で「平和」を叫ぶ人々が居る。それ自身が悪い事だとは思わない。だが、彼らは自分達の手もまた血まみれである事を認識しているのだろうか。如何なる生物もそうだが、特に我々は絶えず他

ぬのが嫌なだけじゃないのか？必ず勝てる相手となら——それしたいんじゃないのか？

負けるのか？列

卒業記念パーティー

卒業式の後、京都ホテルで開かれた卒業記念パーティーの様子を佐々木元局長のレポートでお伝えします。

卒業式とそれに続く記念パーティーは、あつと思つたその瞬間に過ぎ去つたような感じだった。六年間、又或いは三年間の長い間、生活の殆ど全てを形造つてくれた我が母校、各星との

生卒業記念パーティ

行われる狩獵。多発する無意味な殺傷事件—そして戦争。自然界の何処にも「楽しむ」のために他の種を殺す動物も、如何なる理由が有ろうと同種内で殺し合いを始める野獣も存在しない。人間はそれを



別れは本当に一瞬の出来事だった。制服・制カバンを放って家にこもりながら、思い出を噛みしめたりしている一卒業生（実は元新聞

卒業式は前述の通りで、一度目をつぶって開けたら終わっていた。恩師の先生方との暖かい握手を終える在即、母校に別れを告げバスで一路京都ホテルへ向うパーティー会場では、スビーチ、会食等が行なわれ続いて余興があった。まず先生方が舞台上がられ、生徒の司会が、各人につい

書き出しが妙に女々しくなってしまった。とりあえず当日の状況報告をしておきます。

以上、文章が支離滅裂なのは受験生である私の身上をどうか御考察下さい。後輩諸君が各人の持つ力を最大限に発露していくなら、洛星は永遠に輝き続けるでしょう。さような洛星!!

「アダムが犯した『原罪』とは自然に背いて智慧の実を食べた事で、以後人間は死と滅亡の運命から逃がられないのだと言う。文明と戦争の関係を考える時、象徴的な話ではないか。」

「文明は人間の牙だ。」

と言う先輩がいる。だが、サール・ペルタイガーがその巨大な牙のゆえに滅びたのだ



# 後期高校生徒会 不成立について

生徒会顧問  
高橋真二先生

先日新聞局から生徒会が今存在しないことについて何か書いてくれと頼まれた。生徒会が存在しないということがニュースといえ、ユースなかもしれないが、どうしてかと問われても、まあよくの努力が足りないのだという。今期生徒会が発足できなかったことは残念だが、それが間違っている気がしない。誰かが責められるべきだとは毛頭思わない。しばらく考えたがあまりおもしろい記事が書けるとは思えない。憂慮する事柄ともあまり思っていない。しかし、もしこのように

## 局 説

先日高校生がピロティで大ケガをしたことは記憶に新しい。このことは、生徒が安全に学校生活を営むことがいかに大切かということを示してくれた。今度の事件の背景には、生徒が安全に適度な運動のできる場所が本校にほとんど備わっていないという背景がある。現在生徒が体を動かすことのできる場所は、運動場と小講堂である。また生徒が最も運動をしたがる時間帯は、昼休みであろう。昼休みというものは、当然のことながら友人たちがたたくさいるので一緒に遊ばせたいし、朝や放課後と違って気軽に汗を流せる。だから必然的に多くの人が同じ場所に集まることになる。ところが、人数の多さとその面積が合わず、非常に危険な状態が続いている。小講堂で事故が起こったということは聞いたことがないが、昼休みの状態は



# 卒業生訪問④

今回は第四期卒業生で歯科医として活躍されている青谷隆史先輩をお訪ねし、時の洛星の様子や歯科医の現状などをうかがいました。

——洛星へどういうわけで入学されたのですか。  
母親がどこから洛星というのは中高六年間を通して一貫教育をする学校だとして聞いてきたみたいで、それを受けたのです。  
——洛星へ入ってどうでしたか。  
やはり雰囲気は違いました。中学に入ってみると「黙想」とかあってとても新しい感じを受けました。  
——その頃の学校はもう落着いていましたか。  
いや僕らが中二で入った時は上がまだ高一で、非常に落着かない部分という感じがした。開拓していかないとね。まあ、こういうところは私学のよいところだね。  
——男子校に六年間おられたのでしたか。  
僕は中学高校と公立に通っていた。友人達とも仲が良かったのだけど、いろいろと話を聞かされてうらやましかったですね。  
——話ばかりですが、その頃はなにをすることが多かったか。  
僕は中学高校と公立に通っていた。友人達とも仲が良かったのだけど、いろいろと話を聞かされてうらやましかったですね。

## 共通 次を終えて

HⅡB 鈴木雄太

HⅡC 木村雅晴

勿論、共通一次は初めての経験で（共通一次と結婚式は一回だけで済ましたいものです）。多少なりとも緊張しました。そして始まるまでは自分もヘッチャラだなんて思っていたものの、結果は全然ヘッチャラでなく、本番の怖さも知りませんでした。試験場では世間で言われているほどビリビリした感じもなく、さすが新人類と思わせるほどでした。やはり、マイペースが必要ですね。

HⅡE 楠木 司

HⅡF 児玉忠泰

一言で「感想」と言っても困るわけだが、次に述べるとしたことが君達の役にたてた幸である。勉強法に関しては今さらわざわざ言わなくてもいいだろう。本番に際しては、まず問題を正確に読み取り、今年度の物理は四問になっていて、時間配分が大きい。変ってくる。又、「慢心」は最大の敵である。初心で真剣に取り組んで欲しい。ただ今だけは、「戦場」へ向かう我々に声援を……!! 試験中は不眠に悩まされず

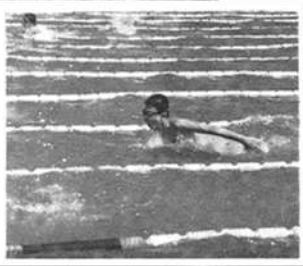
HⅡD 竹村一徳

共通一次を振り返ってみてつくづく不思議に思うことがある。それは試験中、自分が試験を受けているという実感がわいてこなかったことである。おかげで、試験中は不眠に悩まされず

HⅡE 楠木 司

HⅡF 児玉忠泰

## ANGLE 32 ⑫ 水 泳 部



冬の水泳部は昔ながら文字通りシーズン・オフだが、今は最もお金のかかる練習期間として充実している。温水プール普及のおかげであるが、十月から五月まで我々はジブシーのストローク（太極）・両洋（西大路三三）・両洋（西大路三三）・両洋（西大路三三）の目下校舎建設中。見違えるほど立派になる。稀に大谷高校（今熊野）、三年前は洛南高校（東寺）にと、温水プールを求めて放課後の市内を走りまわった。この冬は気合が入っている。中学も高校もかなり育ってきた。メンバーがそろった。金中・インターハイ出場が共に実現できそうである。高い目標を見据えて、この機会をのさばり、相当意識的に強化を図っている。その内容は、年末と春休みの強化合宿、週六回の水中練習、週五回の朝練、昼休みの筋トレといった具合である。途中ながらその成果は既に一月十五日の新年フェスティバルで顕著に現れている（後期戦績参照）。ほとんどの者が飛躍的な記録更新を見せた。全国への目標達成に向けては手応え十分である。スミシングのまだ少なかつた時代は、洛星は度々勝ってきた。中学でいうと、京都の年間の全試合を制覇した年が何度かあり、近畿大会優勝の栄冠も得た（京都男子では洛星だけ）。ともかく中学は洛星の独壇場だった。（高校は部員減に悩まされながらも、時折国体で選手を送り出してきた）が、現在は学校レベルで見ると、群雄割拠。その実スミシングでみっちり養成した選手の間で競争が激化する。従前通りの日課をこなすだけでは、洛星もそう簡単に勝てない。強化への努力と工夫なくしては、相対的優位を保てない。メンバースタッフも得て選手の間で競争が激化する。きつい練習を皆よくこなしてくれているが、その分成長のドラマが折々見られる。泳力の違いは第二の問題で、その人に応じた鍛錬を熱々と続けて一杯強くなることを追求するのである。洛星ではあたりまえのことだが、泳力の弱い人も強い人も泳ぎ続けているというところが、むしろクラブを堅固なものにしていくという。強化といっているが、前掲である。だから勝負のドラマの上に成長のドラマを見た時、本当に師弟共に誇りを感じる。水泳部二十一年の歴史はブルの年令と共にある（目下ブルは水もれで悩んでいるが……）。このブルで苦楽を分かち合ったOBがやがて百人になる。四年前正式のOB会が発足しておかげで、OB諸兄の活躍を直接聞く機会がええと嬉しい。語り口は異なっても、誰しも水泳に自分の青春を傾けていた顔を見せられる。そして今はそれぞれ社会でしっかりと仕事を営んでいる。顧問として本当に報われた気がする。宮崎周・寺井治夫



